

# 世の中の アノコト 2018

ミエタ

2018

2月10日  
(土) 17:00

2月12日  
(月・休) 15:00

ゲストアーティスト

荒木優光、サンガツ、  
堀尾寛太、米子匡司

公募アーティスト

世紀マ3、清水卓也、  
おおしまたくろう、  
いまいけぷろじえくと、  
山本和智、Aoi



- 知覚の解放体験 -

愛知県芸術劇場小ホール

●主催：愛知県芸術劇場  
●問合せ：052-971-5609 event@aaf.or.jp  
●助成：平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

# サウンドパフォーマンス プラットフォーム2018

## 知覚の解放体験

「コンサート」ではこぼれ落ちてしまう前衛的な音楽作品や、台詞・身体表現を伴う作品など、ひとくくりにはできない新たな音のパフォーマンスを一挙で紹介する場、「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム」。

今回は、「知覚の解放体験」というテーマを設け、劇場での鑑賞の仕方にも踏み込んだ、多様なパフォーマンスへのチャレンジを募集しました。さらに、イベントスペースのディレクションや運営など、新しい動きにいち

早く着目しながら最前線の現場に立つ審査員が新たに加わり、彼らによって選出された6組の公募アーティストと、サウンドパフォーマンスの拡張や実験を続ける4組のゲストアーティストが2日にわたってパフォーマンスを繰り広げます。

このプラットフォームでの衝撃が、新しいアウトプットへとつながることを望んでいます。

場所 愛知県芸術劇場 小ホール

(愛知芸術文化センター地下1階)

チケット

一般 2日通し券 — 3,000円

一般 1日券 — 2,000円

U25 1日券 — 1,000円

高校生以下 — 無料

(要予約。電話又はメールにて)

取扱い：当日券のみ

※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書)

※受付開始は各日開演の45分前から

2日通し券は特製ステッカー付き!

審査員

新見永治 (バルル)

猫町 (spazio rita)

野口順哉 (外/空間現代)

森田太郎 (K.D japon / 喫茶モノコト)

藤井明子 (愛知芸術劇場プロデューサー)

2月10日

(土) 17:00

ゲストアーティスト

堀尾寛太



photo by 小山田邦雄

1978年広島県生まれ。マンと音の自然な関係性を追求し、自作の電子回路と機構を組み合わせた、音、光、運動、位置などさまざまなエネルギーを相互に変換し、物の自律した動きを作り出す装置によるライブパフォーマンスやインスタレーションを国内外で発表。また、エンジニアとして展示やイベント、プロタイピングのための電子デバイスなどの開発も手掛けるほか、インターフェイスと振動を統合した電子楽器のプロジェクトも開始している。

米子匡司



photo by 鎌部善介

楽器/電気/コンピュータなどを使ってライブイベントでの音楽演奏、展覧会などの形で音を含む環境の制作や展示、音を扱う道具の制作などを行なう。音楽以外の最近の活動としては、いろいろな物品をストリートで販売するための自動販売機の製作と設置、雑誌「余所見」の発刊、シェアハウスも兼ねる複合建物「PORT」や、住居兼オープン・スペース「FLOAT」の運営など、グループ・ワークとしてはSJQ(cubicmusic/HEADZ)およびSJQ++のメンバーとして活動。

2月12日

(月・休) 15:00

荒木優光



サウンドドキュメンタリーやフィールドレコーディングなどを用いて、聴取の体験としての音の在り方/所在を探る。作品は劇場でのスピーカーとオブジェによる音響上演や展示、音源作品などフォーマットにとどめず展開する。並行したプロジェクトに、記録にまつわる作業集団ARCHIVES PAY(アーカイブスペイ)での活動、映像やパフォーマンス作品におけるサウンドデザインも行う。エクスペリメンタルジャンクバンドNEW MANUKEのメンバー。

サンガツ



東京で結成。4つのドラムと2つのギターと1つのベース。場所や身体を使った音楽パフォーマンス作品を多数制作、北京、ベルリン、ソウル、台北等で公演を行う。チェルフィッチュや藤井光氏等、他ジャンルとのコラボレーションも多数。2012年1月に以後発表する楽曲の著作権放棄を宣言、ポスト資本主義社会における音楽の形を模索する。

2/10

公募アーティスト

2/12

世紀マ3

「拜啓、高架下より」

2007年より名古屋を中心にライブ活動開始、17年の現在まで毎年コンスタントにライブ活動を続ける。現在の編成は主に和太鼓、缶カラミ味線、サーキットバンド等。

おしまたくろう

「PLAY A DAY」

身近な道具を改変した楽器の制作と、それらを組み合わせた少し不思議なサウンドパフォーマンスを展開する。音楽や楽器の名を借りた遊びやユーモアによって通念をひっくり返し、人々の思い込みやアタリマエが生み出す社会の不寛容さをマッサージする。

清水卓也

「Polymorphism」打楽器奏者：林美春 使用打楽器：池田萌

1986年愛知県生まれ。現在東京都在住。2012年愛知県立芸術大学音楽研究科博士前期課程作曲領域修了。現在IT関連会社に勤務。コンピュータを用いて自動的に楽譜を生成する技術を一生涯研究。

いまいけぶろじゅくと

「身体奏法/stick」岩淵貞太作曲(いまいけぶろじゅくと委嘱作品)

作曲家兼パフォーマーの今村俊博(東京都在住)、池田萌(愛知県在住)によるユニット。2014年からこれまでに6回の公演を東京と名古屋で開催。

山本和智

「Play-Replay-Meta-play」

独学で作曲を学ぶ。オーケストラ、アンサンブル、独奏曲、映画音楽など作曲活動は広範に亘り、作品は東京フィルハーモニー交響楽団等によって日本をはじめ各国で広く演奏されている。2009年度武満徹作曲賞第2位、10年第5回JFC作曲賞等授賞多数。

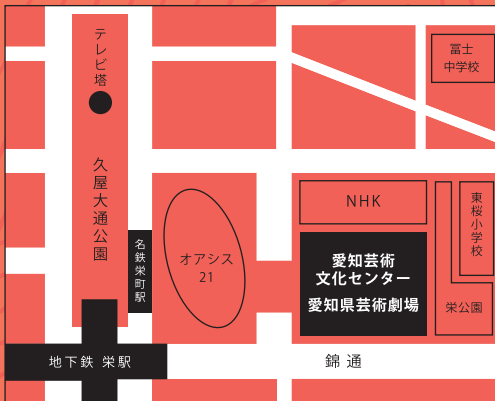
Aoi

「声のないうた」

音と映像、時々ノイズ。従来のコンサート形式における音楽や、五線紙の上で行われてきた音のあり方を見つめなおし、音を空間をつたう一つの素材として捉えた、空間における音楽の可能性を追求している。ライブハウスで音を聴きながら、日常のあらゆる風景にある音を聴きながら、音楽について、その境界線について考えている。

●主催・お問合せ

愛知県芸術劇場



〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2  
TEL 052-971-5609 (10:00-18:00)  
event@aaf.or.jp http://www.aac.pref.aichi.jp/

※やむをえず、出演者等が変更になる場合があります。



助成：平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業